

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	福島保育園
活動日時	令和6年6月～11月
クラス名(年齢)	ゆり組 (4歳児)
年間テーマ	観察遊び
記録者	松村 真由美

1、活動のテーマ

・観察遊び

〈テーマの設定理由〉

・日々、自然が大好きな子供たち。園庭や散歩にも図鑑を持ち、観察を楽しむ中でいつも栽培などを手伝ってくれる先生からバタフライピーの種を貰う事に！そこから子供たちにバタフライピーの話をしバタフライピーとはどんな花？から調べる！になり探究心に繋がった。実験や科学にもつながるバタフライピー。これを機に植物や自然の仕組みや不思議に興味関心をもち子どもたちの好奇心に繋がるようこのテーマに設定した。

2、活動スケジュール

6月 種を観察し、バタフライピーの種植えを行う。

7,8月 朝の登園時に生育を見守り、水やりなどを行い、開花までを観察。

9,10月 花摘み、乾燥をさせて色水遊びから色の探究や実験をする。そこから凍らせたり染め紙に発展。

11月 花の時期が終わり、さやから種を収穫し、観察する。

3、環境をデザインする(活動のために準備した素材や道具、環境設定)

・プラコップ ・スプーン ・水 ・レモン汁 ・製氷皿 ・ペーパー

- ・咲いている花から色が出ないこともあるので乾燥させた花も用意する。
- ・できる限り子どもたちが発見や探究を楽しめるように道具や時間を設定する。

4、探究活動の実践

〈活動内容〉

- ・6月に種まきをしたバタフライピーの花を観察、収穫し乾燥させておく。
- ・5人ずつの6グループで色水遊びを行い、色が出るためにはどうしたらいいのか一緒に考えたり混ぜたり自然物から色を出す方法を知り色を見つける楽しさを味わう。
- ・できた色水に太陽の光やレモン汁などを足した時の変化を楽しむ。

活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり

こどもの姿(準備から導入～活動の記録)	資料(写真など)
《6月》 ・種の観察をし、バタフライピーの種植えを行う。種を見て「小さいね」「虫みたい」「うさぎのうんちみたい！」と面白い言葉が出る。 ・「めがでた」や「ながくなった」など登園時に目に入る場所に植えたので朝の時間に教えてくれた。水やりなど行い、当番活動から自立心に繋がった。 ・花が咲くと「青色だった」と発見を楽しめた。 ・花の色や匂いに興味を持つ子、早く色水遊びをしようとせかす子などそれぞれがバタフライピーに興味関心は持てた様子。 《9月～11月》 ・色水遊びをするため日々、花を摘み乾燥させていく。 - 毎日の水やりなどで花の摘み取り観察をする。 ・色水遊びを展開。まずは観察したバタフライピーをコップに入れて潰してみた。色が出るためにはどうしたらいいか一緒に考えてみる。「スプーンのうしろだとつぶしやすい」「混ぜるだけで色がでないのかも」とのこえがあり、色の出し方を工夫していた。 ・色が出ると「きれい」「ゼリーみたい」ととても喜んでいて。太陽に向けると「すごきれい」と発見を共有しようとする子もいて変化を楽しむ。 ・酸性を入れると色が変化するということを知り「すっぱいものってなに?」「れもん」「うめぼし?」とのことでレモン汁を入れてみる。入れる前に「白じゃない?」「変わらないんじゃない?」などの声が聞かれ入れてみると「むらさきになった!」「なんで?」など疑問や驚きが聞かれた。「凍らせたい」「服に色付くかな」から製氷皿に入れて凍らせてみたりペーパーを染めてみた。 ・さやが黒くなると種が取れることを伝えとさを日々、観察し黒くなると「枝豆みたい!」と楽しみながら取っていた	 
・バタフライピーという花について知り、そこから始まった観察や実験。種まき、収穫、観察、乾燥、色水遊び、種取。子どもたちの「なんで?」という気持ちが刺激することができ、芽が出た、花が咲いたなど様々な気付き、発見などがあり、別の花ではどうなのだろうと次へ繋がる言葉も見られた。スプーンのうしろで潰すことや太陽を見て色を感じる、物質を加えると色が変わるなど予想を上回る子どもたちの発見で保育者も楽しみながら活動ができた。また、活動をする中で子どもたちが自分なりに考えイメージをして案を出し合いながら皆で一緒に行う楽しさの共有、友だちの意見などを聞き入れ協同性が持てた。様々な気付き、発見などがあり別の花ではどうなのだろうと次につながる言葉が出たのも嬉しかった。良い経験となったので、種取で取った種をまた来年に繋げ、今後も子どもたちの興味関心を活動を通していく中で、保育者も子どもたちの興味、関心、考える力など様々な姿に触れ、言葉掛けや子どもたちが発信する言葉に耳を傾ける事の大切さを感じた。	